

【情報名】性フェロモン利用によるチャノホソガの発生予察						
部門	茶業	専門	作物虫害	分類	普及	連絡先
【実施機関名】三重県農業技術センター						茶業センター 05958-2-3125
【要約】						
チャノホソガの性フェロモン成分(E/Z(9/1)-11-HDAL)を1%含ませたゴムキャップを誘引源としたトラップは、本種の発生予察に利用できる。入口面積を小さく(8cm ²)したトラップによって、予察労力が大幅に軽減できる。						
キーワード:チャノホソガ・生理活性物質・性フェロモン・発生予察						

【背景・ねらい】

近年、発生予察に用いられている乾式予察灯はチャノホソガの誘殺数が少なく、成虫発生のモニタリングが的確にできない場合がある。そこで、設置が簡単で、雄成虫に対する誘引性が高い性フェロモンの発生予察への利用を検討した。また、資材、虫数の計数労力を軽減できるトラップの構造を検討した。

【情報の内容・特徴】

(1) 性フェロモントラップの設置位置(図1)

低温期の第1回成虫発生期には茶樹の摘採面と同じ高さの位置が、第2回~第5回成虫発生期には摘採面よりやや高い位置(摘採面上20~40cm)が適当である。

(2) 性フェロモン誘引源の有効期間(図2)

性フェロモン成分を1%含ませたゴムキャップの野外での誘引性は、45日間有効であった。誘引源は成虫発生期の終了時に交換すれば、次の成虫発生期終了時まで交換の必要はない。

(3) 性フェロモントラップによる誘殺消長(図4)

性フェロモントラップによる誘殺消長は予察灯(湿式蛍光灯)による誘殺消長とはほぼ一致し、誘殺ピークは明瞭であった。

(4) 性フェロモントラップの改良による予察労力の軽減(図3、図5)

慣行の性フェロモントラップ(入口2方向、入口面積約127cm²、粘着式)は誘殺数が多すぎため、粘着板の交換、虫数の計数にかなり労力を要する。慣行性フェロモントラップの入口面積を8cm²(慣行の約1/16)に縮小することによって、粘着板の交換が半旬毎でよく、虫数の計数労力も大幅に軽減される。

【情報活用上の留意点】

- 成虫発生期の途中でトラップの位置変更や誘引源の交換は、誘殺消長の乱れの原因となるので避ける。
- 本試験で供試したチャノホソガの性フェロモン誘引源は、日本植物防疫協会を通じて購入できる。

【具体的データ】

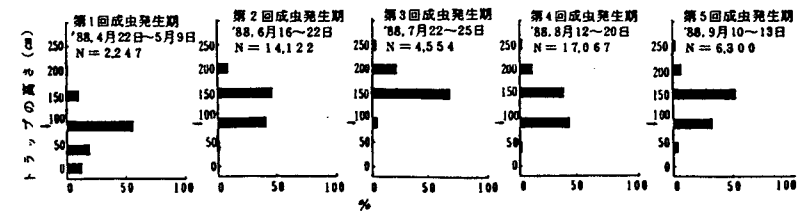


図1. 性フェロモントラップへの誘殺数の高さ別比率
→は摘採面を示す。Nは全誘殺数。

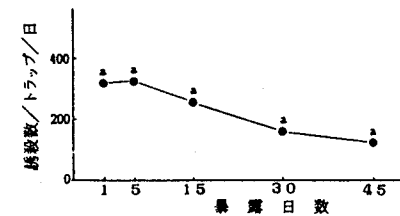


図2. 誘引性の持続期間
同文字間に有意差なし(Duncan, 5%)

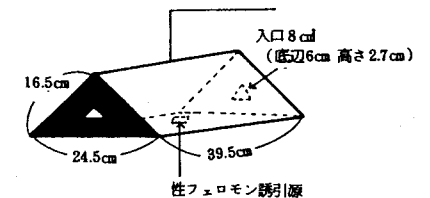


図3. 改良型トラップの構造

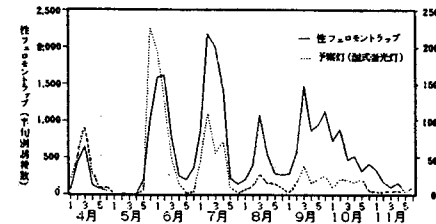


図4. 入口127cm²の性フェロモントラップによる誘殺消長
(平成2年と3年の平均)

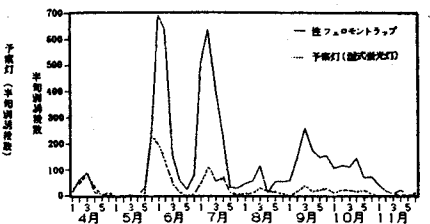


図5. 入口8cm²の性フェロモントラップによる誘殺消長
(平成2年と3年の平均)

【その他特記事項】

研究課題名: ハマキムシ類を主体とする害虫の生物学的防除技術の確立

研究期間: 昭和62年~平成3年 予算区分: 県単

研究担当者: 大谷一哉

発表論文等: 茶業研究報告(1988)、68(別)、16(講要)、同(1989)、70(別)、59-60(講要)